

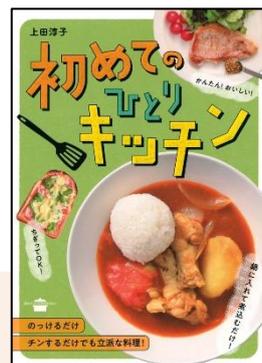
# TC 通信

№ 100 2021年7月号

- ◆ティーンズ世代=10代のための読書情報誌です。
- ◆ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。



ティーンズコーナーに新しく入った本からピックアップ。



## 『初めてのひとりキッチン』

上田 淳子/著 講談社 596/ハ/21

みなさんは料理をしたことはありますか？むずかしそう。正直めんどくさい…。いろいろな意見があると思いますが…。(私はもっぱら後者です☆)そんな人たちでも大丈夫!!この本を読めばそんな考えが吹飛びます。

包丁を使わず手でちぎったり、キッチンバサミでザクザク切ったり。そもそも載せるだけで完成!みたいなレシピまで載っています。その他にも、「親子丼」や「デミハンバーグ」などの手の込んだ難しそうな料理も、この本を見ると挑戦しやすそうです!!

ゼロから料理に挑戦する人はもちろんのこと、普段から楽しんでいる人にもおすすめの本です。この本で料理上手になっちゃいましょう☆



## 極め道

### 『即興型ディベートの教科書』

加藤 彰/著 あさ出版 809.6/ソ/20 3階実用

“極め道”第2弾は“ディベート”です。みなさんは“ディベート”って知っていますか？ディベートとは、あるテーマに関して対抗する2組が論理的に観客を説得するために議論する競技です。大学ではディベートの大会が開かれていますし、この東海地区でも中高生のディベート大会が開催されているようです。

今回ご紹介する本は、「ディベートの教科書」というだけあって、東大生が今まで培ったテクニックをわかりやすく伝えてくれる本なんです。ディベートを知れば、思考力・プレゼン力がアップし、きっと将来役にたちますよ!

# テーマ どろどろ

どろどろに溶けそうなくらい暑い夏。背筋がゾクッと寒くなる、怪談のシーズンですね。でも本当に怖いのは、どろどろ～と登場する幽霊よりも、人間のどろどろした感情かもしれません…。



## 『21世紀によむ日本の古典 20 東海道四谷怪談』 田口 章子/著 ポプラ社 918/ホフ/02-20

「21世紀に読む日本の古典」シリーズの1冊です。

浪人・民谷伊右衛門を中心に繰り広げられる、人間の欲望から出た恐ろしい物語で、怪談でよく耳にする“お岩さん”が登場するお話でもあります。

江戸時代の作家・鶴屋南北という人が歌舞伎の脚本として書いたもので、伝説や、すでに出ていた小説をもとに作ったそうですが、於岩稲荷という神社が実際にあるので、もしかしたら本当にあった話なのかも…とってしまう、身の毛もよだつお話です。

人間関係のどろどろした感じもありますが、幽霊のドロドロ～も、もちろんあるので苦手な方は昼間に読むのをおすすめします☆

## 『知識ゼロからの妖怪入門』 小松 和彦/著 幻冬舎 388.1/チ/15 4階一般

“どろどろ”と言ったらお化け！でも人一倍こわがりの私は、その手の類が大の苦手、特に日本の幽霊などは絶対無理！！そんな私もなぜか妖怪ならば大丈夫。どこかユーモラスな妖怪も多いからでしょうか？

この本はまさに妖怪の入門書で、“一反もめん”や“座敷わらし”などの超メジャーな妖怪から日本全国、地方別の妖怪まで、とてもわかりやすく解説されています。“ぬらりひょん”は妖怪たちの総大将。また“豆腐小僧”は気弱でいじめられっ子、なのに江戸随一の人気者だったんですって！

巻末には「現代の妖怪たち」として“妖怪ウォッチ”や、「巨匠・水木しげるの世界」なども掲載されています。みなさんも妖怪の世界を楽しんでみてくださいね。

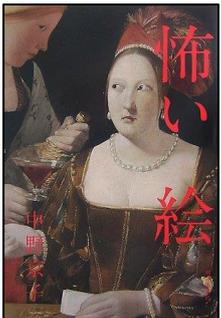


## 『怖い絵』 中野 京子/著 朝日出版社 723/コ/07 4階一般

ドイツ文学者、中野京子さんの『怖い絵』は、名画に隠された「怖さ」を見つけるという西洋絵画の新しい楽しみ方を提案して大ヒットした「怖い絵」シリーズの第1作である。

美しい絵画の裏には時として、悪意や陰謀、妬み、怨恨、狂気といった人間の心の暗部が隠されていたりする。聖書や神話の中の禍々しい物語や、歴史上の人物の残酷で非情な運命、人間社会の不合理な出来事など、その絵の描かれた背景を知ることによって、西洋絵画はずっと面白くなる。

人間の心の奥底に潜む「どろどろ」とした心情を見事に映し出した絵画など、20点余りの名画の隠された「怖さ」をこわこわと垣間見てみるのはどうだろう。怖いもの見たさの心理を満足させるに違いない。



## 『くらべてわかるオノマトペ』

小野 正弘/著 東洋館出版社 814/ク/18 4階一般

「どろどろ」普段何気なく使っている言葉(?)ですが、何を想像しますか？おばけ？愛憎劇？液体？様々なものが想像できると思います。今回はこのような擬音語・擬態語の総称であるオノマトペの本を紹介します。

テーマである「どろどろ」ですが、この本の85ページに紹介されています。本の題名にもありますが、似ている表現をわかりやすく比べてみようということで、「どろどろ」は「ずぶずぶ」との比較となっています。なるほど言われてみれば納得！といった感じで、すばっと違いが解説されています。しかもどちらがより勝っているかの判定付き。どちらが勝ったかは、読んでみてからの楽しみで。これを機にオノマトペの世界を堪能してみてください。



# ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)



## 『うたうとは小さいのちひろいあげ』

村上 しいこ/著 講談社 F/ムラ/15

「短歌って、心の格闘技かもしれない」

中学時代のいじめを引きずって高校生になった二人、桃子は「うた部」(短歌)に出会い、綾美は引きこもりになって、高校生活がスタートする。毎日綾美の家に行く、友達を作らないと宣言するなど、いびつな二人の関係に光を与えたのは、「うた部」の仲間であり、言葉の力だった。

短歌甲子園にトライすることになった「うた部」に綾美も参加することになり、自分の感情をぶつけるだけではなく、人に届けるように詠むこととアドバイスを受け、徐々に変わっていく。「うたうとは小さいのちひろいあげ」桃子の上の句に綾美が下の句を詠む。すべてがうまくいくわけではない。当然「うた部」の他のメンバーにも悩みや問題があり、このあと高校2年、3年と物語は展開していく。短歌が少し身近になる?かも!

## 図書館員 A の本棚

みなさんは本を選ぶとき、どのような基準で選んでいますか?私は主にタイトルにつられてしまうことが、9割。図書館にはたくさん本があるので、インパクトのあるタイトルの本に手が伸びます。なぜなら、タイトルにツッコミを入れたくなる本が好きだから。今回は、私の中でタイトルにインパクトある本たちを紹介させていただきます。もっとインパクトあるタイトルの本を知っている方、ぜひTCポストにてお知らせください。

### 『時をかける眼鏡』

榎野 道流/著

集英社

F/フシ/15



### 『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う』

青柳 碧人/著

双葉社

F/アオ/20 4階一般



### 『もうダメかも』

マイケル・プラストランド、  
アイヴィッド・シュビーゲルハルター/著

松井 信彦/訳

みすず書房

417/モ/20 4階一般



### 『人生は攻略できる』

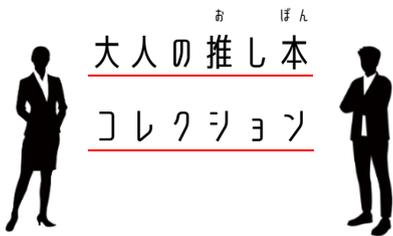
橘 玲/著

ポプラ社

159/シ/19 3階実用



# 大人の お 押しコレ



お ぼん  
大人の押し本  
コレクション

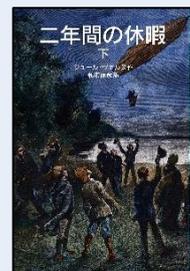
## 『二年間の休暇（上・下）』

ジュール・ヴェルヌ／作

私市 保彦／訳

岩波書店

95/イワ/12-1・2 **3階児童文庫**



「十五少年漂流記」のタイトルで有名な児童小説ですが、この本は原文を完訳したものです。

完訳では特に、リーダーである13～4歳の上級生たちが、それぞれ生きるために考え、悩み、時には衝突しながらも互いを尊重していく姿が詳細に描かれ、その時々感情や思い、心の変化が生々しく伝わってきます。

小学生の頃に出会いましたが、むしろ上級生と同年代になった中学生の頃に共感できた、夢中になって読める小説です。

## 名作 たからばこ



### 『ガラスの動物園』

テネシー・ウィリアムズ／作 松岡 和子／訳 劇書房 932/カ/Y **閉架一般**

この戯曲は『欲望という名の電車』で有名なテネシー・ウィリアムズの自伝的作品。1944年に初演され、大好評を得た。

お芝居は、語り手トムの追想から始まり、「捨て去った過去」と「家族の思い出」へと遡っていく。過去の華やかな思い出にすがり、娘の未来を夢見る母親アマダ。ガラスでできた動物のように壊れやすい心をもつ姉ローラ。仕事と家族を嫌い、家から逃げ出す息子のトム。そしてその家族のもとを訪れる一人の青年ジム。4人がそれぞれ、過去に失った大切な何か、を巡る「思い出の劇」なのである。

後半、ローラがジムにガラスのユニコーンを手渡す時、「あ、気をつけて——息を吹きかけると、壊れるから！」という言葉がとても印象的だ。

人生とは？愛とは？人間とは？家族とは？数多くの問いを含んだ、アメリカ文学最高峰の傑作に触れてみては。

## ティーンズコーナーで待っています！

ティーンズコーナーは、中高生（ティーンズ）世代向けに、さまざまなジャンルの本を集めたコーナーです。図書館3階の北側自動ドアから入り、まっすぐ進んだ先の左側の本棚にあります。看板が目印！

悩み解決のヒントになる本、知識を深める本、趣味を広げる本など、児童書よりもステップアップした内容のものや、10代の皆さんにおすすめの読み物を用意しています。

「〇〇について調べたい！」  
「△△の本はどこ？」など、  
本に関する相談や探し物は  
職員に気軽に聞いてみてね。



©Kasugai City 2008  
書のまち春日井「道庵くん」

発行：春日井市図書館

愛知県春日井市鳥居松町 5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。